

授業概要

本講義では、「先進」国と比較して「発展途上」にある諸国の経済について、〈歴史〉、〈現状〉、〈理論〉の3編構成によって論ずる。〈歴史〉編では、列強の植民地が第2次世界大戦後に独立する過程で生じた「南北問題」と、新規独立国の中でいち早く工業化を達成した「NIES」について概観する。〈現状〉編では、リーマン・ショックにより先進国経済が打撃を受ける中で台頭した新興諸国、特に「BRICS」諸国の現状について概説する。〈理論〉編では、発展途上国を分析する理論である宇野派段階論、「国家資本主義」論、「キャッチアップ工業化」論、等を解説する。

授業計画

| | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション：講義の全体構成、注意事項、成績評価方法等に関する説明 |
| 第2回 | 発展途上国の歴史（1）：植民地の独立と南北問題 |
| 第3回 | 発展途上国の歴史（2）：プレビッシュ報告と新国際経済秩序 |
| 第4回 | 発展途上国の歴史（3）：NIESの台頭と「東アジアの奇跡」 |
| 第5回 | 新興諸国の台頭（1）：グローバル資本主義の展開と新興経済 |
| 第6回 | 新興諸国の台頭（2）：中国経済の現状（その1） |
| 第7回 | 新興諸国の台頭（3）：中国経済の現状（その2） |
| 第8回 | 新興諸国の台頭（4）：インド・バングラデシュ経済の現状 |
| 第9回 | 新興諸国の台頭（5）：ロシア経済の現状 |
| 第10回 | 新興諸国の台頭（6）：ブラジル経済の現状 |
| 第11回 | 講義の中間総括と中間試験 |
| 第12回 | 発展途上国分析の理論（1）：宇野派段階論の概要 |
| 第13回 | 発展途上国分析の理論（2）：「国家資本主義」論の現況 |
| 第14回 | 発展途上国分析の理論（3）：「キャッチアップ工業化」論の展開 |
| 第15回 | 講義全体の総括 |
| 第16回 | 期末試験 |

到達目標

発展途上国に関する（1）歴史、（2）現状、（3）分析の理論、の3分野に関する知識を踏まえた上で、発展途上国における経済成長はどのようにして実現してきたのか（そして、なぜ一部の発展途上国では経済成長が困難であるのか）、そして現代の世界経済において発展途上国が占めるプレゼンスはいかなるものか、という問題について思考し理解を深めることを到達目標とする。

履修上の注意

私語など他の受講者が平穏に受講する権利を妨害する行為は、厳禁する（成績評価の参考とする）。遅刻2回で欠席1回とみなす（成績評価の参考とする）。

予習復習

予習：参考書の該当箇所を適宜指示するので、予習を心がけること。
 復習：授業内容を確認するプリントを適宜配布するので、復習を心がけること。

評価方法

以下の方法で成績を評価する。試験時の持ち込みについては、初回ないし第2回の講義において具体的に指示する。

1. 平常点（中間テスト等）：50%
2. 期末テスト：50%

テキスト

参考書：SGCIME 編『グローバル資本主義と新興経済』（日本経済評論社）、SGCIME 編『増補新版 現代経済の解説』（御茶ノ水書房）、末廣昭『新興アジア経済論』（岩波書店）。

授業概要

本講義は、発展途上国が直面する経済問題の原因を究明することを目的としている。戦後誕生した発展途上国の経済発展は、今なお世界が抱える重大な問題である。なぜ一部の発展途上国は経済成長の軌道に乗れたのか。一方、貧困に喘ぐ発展途上国にどのような出路があるのか。本講義では、特定の発展途上国・地域を分析するのではなく、発展途上国を観察するための視座を提供するとともに、戦後、発展途上国が追及してきた経済開発戦略を考察する。

授業計画

| | |
|------|----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・発展途上国とは何か？ |
| 第2回 | 発展途上国の特性 |
| 第3回 | 近代化論と経済発展論 |
| 第4回 | 人口動態 |
| 第5回 | 産業構造 |
| 第6回 | 農業発展 |
| 第7回 | 農村開発 |
| 第8回 | 開発と金融システム |
| 第9回 | 産業開発と法制度整備 |
| 第10回 | 輸入代替工業化戦略 |
| 第11回 | 輸出志向工業化戦略 |
| 第12回 | 貧困削減政策の概観 |
| 第13回 | 開発・貧困と社会調査 |
| 第14回 | 教育と開発 |
| 第15回 | 発展途上国と日本 |
| 第16回 | 筆記試験 |

到達目標

戦後半世紀にわたって経済発展を目指した途上国が経験してきた主要問題とは何か、それはなぜ発生したのか、同じ過ちを繰り返さないようにするにはどうすればよいのか、という3つの疑問に答える。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る途上国の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後30分以上の遅刻者には出席点を与えない。

予習復習

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEBサイトの開発経済学に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

レポート(50%)と授業内テストによって成績が決まる。授業内テストは、講義で得た知識の理解度を見ると同時に、関連するテーマに関して論述する能力を見る。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していく。